

障害者雇用に取り組んでいる事業所や、就労に関係する機関をご紹介します。

Chiyoda Working Mates

共に働く仲間を理解し、思いやり、その繋がりを強化する職場作りを目指す
日本アспектコア株式会社 チャレンジドセンター



ドキュメントを電子化する作業の様子。

チャレンジドセンター

所在地 ■ 東京都港区赤坂四丁目9番9号赤坂MKビル5階
従業員数: 11名 (2016年1月現在)、業務内容: 社内ドキュメントを中心とした電子化業務 (電子化前ドキュメントの原稿状態の確認、原稿整理、ドキュメントの電子化作業)
<http://www.aspectcore.co.jp>

すべての作業工程にツールがあり、同じ品質に仕上げ、少しでも達成感を持って作業ができるようになっています。

千代田区内に本社をもつ日本アспектコア株式会社は、お客様のビジネスプロセスを支援するアウトソーシングサービス事業を行っています。現在、障害のある方が11名働く赤坂事業所内の「チャレンジドセンター」は平成24年4月に設立され、主にドキュメントの電子化作業、データ入力などを行っています。

ドキュメントを電子化する「スキャニング」は複雑な工程の作業ですが、作業別の手順書とツールを配備し、誰でも一定の質の作業ができるような工夫がなされています。環境面では、予め1.5時間ごとに休憩時間を設定し、集中して作業ができるような体制を作っています。さらに、事業所内の応接室は昼休みの時間帯は休息用に使用でき、昼食後にソファで仮眠をとったり、休養がとれるよう、しっかり休んで業務に集中できるシステムが整っています。

仕事の効率が上がる工夫は、働くメンバーを中心に考えられており、平成25年には社内のTQM活動にエントリーし、良い品質の製品を作るにはどうしたらミスが無くなるか等、工程内の不良を無くす試みを発



表しました。ミスを無くすため、どういう対策をすればどういう効果があるか効果測定を実施し、メンバーが資料を作り、発表を行いました。

「チャレンジドセンター」では働くメンバーの力が活用されており、障害者も健常者も「共に働く企業風土づくり」に役立っています。こうした障害者雇用の取組みに対し、平成26年に「平成26年度障害者雇用優良事業所等表彰 高齢・障害者・求職者雇用支援機構理事長努力賞(障害者雇用優良事業所)」が授与されました。

障害者雇用に関しては先進的な企業ですが、立ち上げ当初から現在まで、スタッフとメンバーの“協働”が現在の姿を作ってきました。

●インタビュー

総務人事部チャレンジドセンター
櫻澤 礼子さん

アウトソーシングサービスはお客様先での業務が中心となるため、従業員の数に対応した障害者をどのように雇用するかが重要な課題でした。平成24年4月、平成22年に設立された赤坂事業所(ドキュメントセンター赤坂)内に障害のある方が働く職場「チャレンジドセンター」を立ち上げ、まずは社内文書の電子化(スキャニング)から進めていくことになりました。

メンバーの頑張りもあり、スタート時の社内ドキュメント電子化業務は予想の何倍も早く進んだため、立ち上げから4か月後の8月には従業員向け書類の封入封緘作業を行い、さらに2ヶ月後の10月には社外文書の電子化、11月には同じく外部の紙加工、翌年25年2月には社内タイムカードの代行入力と、当初考えていた社内文書の電子化に留まらず、従業員向けの発送業務や紙折りに加え、外部からもスキャニングやお客様のデータ入力を請け負うなど、「チャレンジドセンター」の仕事内容の幅は広がっていきましました。

積極的にインターンシップを受け入れることが、メンバーの力を引き出す

実習の受け入れは、「チャレンジドセンター」立ち上げ初年度から積極的に実施しています。障害特性をスタッフが理解するためにも、初年度から毎月1名程度の職場実習生を受け入れてきました。職場で実習生を受け入れるのはセンター内で働くメンバーにも刺激になり、「見学や実習を受け入れることで、他の障害のある人の役にたいたい」という意見が出ました。

センターをスタートした当初は幼児教育を専門的に学んだメンバーがおり、知的障害のメンバーのサポートを積極的に担当してくれました。立ち上げの年の6月からは実習生の受け入れにメンバーが指導者として関わるようになり、メンバーの協力なくして実習生の受け入れはできませんでした。サポートが必要なメンバーの指導、実習生のサポート・指導、作業管理、作業手順書やツールの作成、改訂など、ほとんどの作業をメンバーが行っています。



「自分のことを理解し、他人を理解し、自分ができることを他人に行うことが、チャレンジドセンターの配慮になっています。」

現在は精神障害のある方6名、知的障害のある方4名、身体障害のある方1名と様々な障害を持つ計11名の方を雇用しています。(平成28年1月現在)。勤続3年以上のメンバーは、作業の工程管理、生産管理、メンバーの指導など、キャリアアップの機会として管理的な業務も担当しています。ある程度の勤務年数になると、他人に対するちょっとした不満が出てくるので、人の良いところを毎日1枚記入し、1ヶ月のうちに全員分のカードを書く「いいね!カード」を作り、お互いを尊重するチームを目指しています。

できることを返していくことが、働きやすい会社を支える配慮

作業面での配慮としては、すべての作業についてツールを作っています。ツールがあることで、同じ品質に仕上げることができます。説明の仕方を工夫し、少しでも楽に達成感を持って仕事ができるよう、ツールを作成し活用しています。生きていくうえでは、その人が力を発揮できるような気遣いや手助けが必要であり、“その気遣いを提供するのためのチームワーク”も必要だと考えています。

自分のことを理解し、他人を理解し、自分ができる手助けを他人に行う。これが「チャレンジドセンター」の信条・信念につながり、配慮となっています。「雇用する側だけでなく、働く人も一緒に取り組んでいくこと」、「やってもらうだけでなく、できることを返していくこと」が働きやすい会社を支える配慮なのだと思います。(聞き手・文/渡辺ひかる)

就労支援のキーワード ● 「就労支援ネットワーク」

障害のある人の就労では、様々な機関がスクラムを組んで働く人を応援します。今回は内神田にある就労移行支援事業所いそひと・LinkBe大手町です。

就労移行支援事業所いそひと・LinkBe大手町 (内神田1-5-4加藤ビル1階)

問い合わせ・ご利用 電話03-3518-2921

「いそひと・LinkBe大手町」は、聴覚障がい専門のいそひと、発達障がい専門のLinkBe(リンク・ビー)の2つから成り立っています。障がい特性に応じた配慮や支援体制を用意しつつも、研修内容は共用し、同質のサービスを提供しています。

この2コースがあることには双方にメリットがあります。

いそひとでは、まず自分の聞こえの課題を知り、人に伝える技術を身につける研修を受けます。その後、スマホやタブレット、PCを使い、ITリテラシーを磨き、伝える手段をたくさん身に付け、ITだけでなく、読話や筆記、指文字など時と場合に応じて自分なりに活用できる手段を身につけます。

いそひとでは、通所中は情報保障(手話、筆談、音声認識など)が整備された環境で研修を受けます。そして就職準備が整ったら、聞こえる人と一緒の環境(すなわちLinkBe)に身をおき、どうすれば自分が働きやすい環境を整えることができる

か、考え、悩み、試行錯誤してもらった機会が得られます。一方のLinkBeでは、通所者(発達障がい者)の中に聴覚過敏、あるいは聴覚記憶が弱い、という特性を抱える方がいます。その場合に視覚からの情報提供が理解の助けにつながります。この時、いそひと向けの情報保障環境(音声を実際のタイムに文字に変換する音声認識機能など)が役に立っています。

お互いの環境を活用しながら、一般事務職として実践レベルの職業トレーニングを実施しています。見学は随時受け付けております。どうぞお気軽にお越しください。

就労移行支援事業所
いそひと・LinkBe大手町
内神田1-5-4加藤ビル1階
電話●03-3518-2921
メールアドレス●
isohito@generalpartners.co.jp



報告 平成27年度 第3回地域交流会

(集まろう・聴こう・話そう)

働く障害のある方の「キャリア」を考える

～キャリア形成・キャリアの自律～

平成27年12月3日(木) 千代田区役所 401会議室

眞保氏からキャリアとは何か、能力開発の方法とOJTの重要性、キャリア権、障害者雇用の雇用管理・人事評価管理、キャリアの幅と深さ、比較優位による仕事創出および取り組み事例について、お話し頂きました。

仕事を固定せず、誰もが全ての仕事をこなせるように能力開発を行うなど、仕事の配置や異動による横のキャリアの幅を広げること、そして障害のある方がリーダー等の役職を担い縦のキャリアを深めていけるようにして社員全員へのモチベーションの波及効果を得ることが、障害のある方の雇用管理において重要だということがわかりました。

企業経営に与える障害者雇用のイメージとして、生産性への懸念や仕事を見出さず困難さが挙げられます。そこで、仕事創出に「比較優位」による分業の視点を取り入れ、得意なことに注目して障害のある方を戦力化していくような業務改善を考えていく必要があります。得意なものに特化して生産するとより多くの財を生産できるという考え方です。成功している企業・組織の共通点には、障害者雇用を「戦力の確保」と捉えているとのことでした。

< 講師 >

眞保 智子氏

法政大学現代福祉学部教授
群馬県教育委員会委員長



▶ チェック

さくらベーカリーの『焼き菓子』

みなさん、さくらベーカリーでは、サブレやクッキー、ラスクといった焼き菓子を販売しています。焼き菓子は、ジョブ・サポート・プラザ ちよだ（千代田区立障害者就労支援施設）に業務委託して障害のある方々が作っています。

焼き菓子ラインナップのひとつとして、女神のクッキー（各種 1 枚 105 円／全 4 種類）があります。女神のクッキーは国産小麦 100% で障害のある方でも作れるようなレシピを開発したと浅倉店長から聞きました。女神のクッキーを紹介します。

“桜のガレット”は桜の花びらと葉っぱ入りで食べると桜が香る味わい深い仕上がりです。“ふすま入りクッキー”はオートミールと胡桃入りでバター代わりにごま油を使用しているので、おいしくてヘルシーです。

“黒砂糖クッキー”は徳之島産の黒砂糖を使い、牛乳も入っていてやわらかい風味です。“ダイヤモンド”の原材料には小麦・バター・砂糖のみ。黄金比のレシピであること、また表面にちりばめられた砂糖がきらきらしていることから、フランス語のダイヤモンドという意味のクッキーです。

ジョブ・サポート・プラザ ちよだでは、外部販売の委

企業などに月 20 回以上も配達や出張販売に出かけています。パッケージも障害のある方が入れやすいサイズを研究してオリジナルのものを使っています。ギフト用の包装には、ギリシャ神話に出てくる豊穡の女神デメテルをイメージした絵柄が入っていて、印象に残る素敵なパッケージです。ギフトとして使い易いので、お中元やお歳暮はもちろんのこと接待の手土産として購入される方も多いそうです。まとめてほしい方は 1 週間くらい余裕をみて注文して下さいね。



「合理的配慮」とは

▶ ワード

前号で合理的配慮についての説明をしました。

では具体的にどんなことをすればいいのか、主に移動に関すること、情報に関することとイメージするとわかりやすいでしょう。例えば、車いすを利用している人にとって段差があると進めない可能性があります。視覚障害のある人には、文字などを読み上げて伝えることであったり、聴覚障害のある人には、筆談などの手段があると助かる方もいます。合理的な配慮は、「個性が高い」こともポイントです。どんな配慮が必要なのか迷った時は、直接声をかけて聞いてみるのも1つの方法でしょう。

就労相談室の予定

登録していなくても利用できる気軽な相談窓口です。利用の場合はご予約下さい。(電話3239-8606)

3月16日(水)、4月20日(水) 9時～16時

場所／千代田区役所 3階 障害者福祉課相談室

第13回福祉まつりブース紹介!!

▶ トピック

平成 28 年 3 月 19 日（土）に千代田区役所・かがやきプラザにて開催予定の第 13 回福祉まつりに就労支援センターもブースを出す予定です。ぜひ、お立ち寄りください!!

ブース内容

- 就労支援センターのパンフレットやこれまでの季刊誌、障害者雇用に関する資料の配布
- ハローワークインターネットサービスを利用した障害者雇用求人検索コーナー
- 障害者雇用に関するDVDの上映予定…

『平成 26 年度 障害者雇用事例集』

『まず、知ることからはじめましょう、障がいのこと』など

福祉まつりについては、千代田区社会福祉協議会にお問い合わせください。(電話 03-3265-1901)



就労支援のお問い合わせ

電話3264-2153 FAX3264-0927

Eメールchiyoda.syuroushien@swan.ocn.ne.jp

千代田区役所(3階)障害者福祉課内 千代田区障害者就労支援センター

千代田区九段南 1-2-1 〒102-8688

発行 ■千代田区障害者就労支援センター／発行責任者 ■猿渡裕司 2016年冬号(平成28年3月15日発行)
取材協力 ■日本アスペクトコア株式会社チャレンジドセンター／就労移行支援事業所いそひと・LinkBe大手町
毎回、活き活き働く障害のある人やその職場を紹介していきます。次号もご期待下さい。